

「A」次の文の（訳）の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 冬はつとめて。…いと寒きに、火などいそぎおこして、炭もてわたるもいとつきづきし。（枕草子）

（訳）冬は早朝（がよい）。…とても寒い朝に、火などを急いでおこして、炭を持って行き来する姿も実に（冬の朝に）「」。

① わずらわしい ② 目新しい ③ すがすがしい ④ 似つかわしい

2 この位去りて、ただ心やすくてあらむ。（大鏡）

（訳）この（皇太子の）位を譲って、ただ「」状態でいよう。

① 気心しれた ② 平静な ③ 気楽な ④ 安心した

3 つたなく弾きて、弾きおほせざれば、腹立ちて鳴らぬなり。（今昔物語集）

（訳）（玄象という名の琵琶は）「」弾いて、十分に弾きなせないと、腹を立てて音を立てないのである。

① 下品に ② 普通に ③ 不真面目に ④ 下手に

4 はづかしき人の、歌の本末問ひたるに、ふとおぼえたる、我ながらうれし。（枕草子）

（訳）（こちらが気後れするほど）「」人が、和歌の上の句・下の句を（私に）尋ねた際に、すっと思ひ出されたときは、われながらうれしい。

① 立派な ② 気の毒な ③ 神聖な ④ 高貴な

5 君は、思し怠る時の間もなく、心苦しくも恋しくも思し出づ。（源氏物語）

（訳）（源氏の）君は、お忘れになるわずかの時もなく、「」も恋しくも（空蟬のことを）思い出しなさる。

① おそれ多く ② さびしく ③ はかなく ④ 気の毒に

6 女のなつかしきさまにてしどけなう弾きたるこそをかしけれ。（源氏物語）

（訳）（琴は）女が好ましい様子で「」弾いているのが趣深い。

① ゆったりと ② 一心に ③ 無造作に ④ 器用に

7 小少将の君は、そこはかとなくあてになまめかしう、二月ばかりのしだり柳のさましたり。（紫式部日記）

（訳）小少将の君は、どことなく上品で「」、二月ごろの（芽ぶいたばかりの）しだれ柳のような風情をしている。

① 気だてがよくて ② 繊細で ③ 色っぽくて ④ 優美で

8 内裏に奉らむと思へど、われ亡からむ世など、うしろめたなし。（落窪物語）

（訳）（娘は）帝に差上げようと思うが、自分が亡くなった時などが、「」。

① 不都合だ ② 問題だ ③ 残念だ ④ 心配だ

「B」次の文の（訳）の「」に入る語句を答えよ。

9 よろしき男を、下衆女などのほめて、「いみじうなつかしうおはします」など言へば、やがて思ひおとされぬべし。（枕草子）

（訳）それ相応の身分の男を、身分の低い女などがほめて、「とても」「いらっしやる」などと言うと、途端に（男は）見下されてしまうにちがいない。

10 命長ければ恥多し。長くとも四十に足らぬほどにて死なむこそ、めやすかるべけれ。（徒然草）

（訳）命が長いと恥が多い。たとえ長生きするとしても四十歳にならないうちに死ぬのが、「」だろう。

11 なかなか長きよりもこよなういまめかしきものかな。（源氏物語）

（訳）（尼の短めの髪も）かえって長い髪よりも格段に「」ものだなあ。

12 鶴は、いとこちたきさまなれど、鳴く声、雲居まで聞こゆる、いとめでたし。（枕草子）

（訳）鶴は、とても「」姿であるけれども、鳴く声が、天上まで聞こえるのは、とてもすばらしい。

① きれいな ② 遠くまで届く ③ 美しい ④ 静かな

解答

【新三年生用】 古文単語330三訂版 P 204 ～ P 211

- 1 「㊦」
- 2 「㊣」
- 3 「㊦」
- 4 「㊠」
- 5 「㊦」
- 6 「㊣」
- 7 「㊦」
- 8 「㊦」
- 9 「好ましく」
- 10 「見苦しくない」
- 11 「現代風な」
- 12 「仰々しい」